

第3回五木地域における林業の成長産業化に向けた全体構想検討委員会
議事要旨

1. 日時 平成28年3月8日(火) 13:00~15:30

2. 場所 五木村役場大会議室

3. 出席者

(委員)

○ 協定者

中林 博之 (国研)森林総合研究所森林整備センター
熊本水源林整備事務所 所長
片岡 明人 住友林業(株) 資源環境本部 技師長
塩見 幸義 王子木材緑化(株) 大阪支店日向営業所 所長
松本 哲生 日本製紙(株) 原材料本部 部長
大場 謙三 日本製紙木材(株) 西日本支店八代営業所 所長

○ 学識経験者

藤掛 一郎 宮崎大学農学部 教授
光田 靖 宮崎大学農学部 准教授

○ 行政機関

眞鍋 行博 熊本県球磨地域振興局農林部 林務課長
黒田 龍司 八代市水産林務課 主任
下内 泰臣 五木村 農林課長
椎葉 百城 相良村産業振興課 林務係長

○ 森林組合

福田 健二 八代森林組合 参事
中野 重実 五木村森林組合 参事
山尾 祐治 五木村森林組合 総務課長
土肥 洋 相良村森林組合 参事

○ オブザーバー

吉田 正樹 (一社)日本プロジェクト産業協議会 森林再生事業化委員会 委員
三井物産フォレスト(株)業務本部 企画業務部長

(林野庁)

漕上 和之 九州森林管理局 局長
中山 浩次 九州森林管理局 次長
井堀 秀雄 九州森林管理局 企画調整課長
黒木 興太郎 九州森林管理局 流域管理指導官
内村 圭一 九州森林管理局 企画官(森林総合監理士、委員)
濱田 秀一郎 熊本南部森林管理署長(協定者、委員)
中嶋 紀光 熊本南部森林管理署 森林技術指導官(協定者、委員)

白濱 正明	熊本南部森林管理署 総括森林整備官（森林総合監理士、委員）
岡本 政秀	熊本南部森林管理署 地域統括森林官
遠坂 洋志	熊本南部森林管理署 首席森林官
岩下 真仁	熊本南部森林管理署 森林官

（事務局）

金森 匡彦	（一社）日本森林技術協会森林情報グループ 森林情報グループ長
吉田 城治	（一社）日本森林技術協会森林情報グループ 技師
後藤 明日香	（一社）日本森林技術協会森林情報グループ 技師
大倉 孝行	（一社）日本森林技術協会九州事務所 九州事務所長
中村 松三	（一社）日本森林技術協会九州事務所 主任研究員
市原 恵子	（一社）日本森林技術協会九州事務所 事務員

4. 主な発言

（全体構想（案）について）

- ・ 全体構想策定のねらいとして、五木地域の林業の成長産業化とともに、森林の有する多面的機能を将来にわたって持続的に発揮させていくことについても、しっかり触れておくべき。
- ・ 関係者間での森林情報の共有は、全国的にも大変重要なことであると認識。ワーキンググループにおいて、活用方法についてもしっかり議論していきたい。
- ・ GIS化については、データの共通性などの課題はあるが、現状も含めてこうした課題を協定者間で早めに共有していくことが重要。
- ・ この全体構想にまとめた取組は全国のモデルとなる取組であり、実績が出るよう具体的な取組をしっかりと行っていきたい。
- ・ 路網整備については、今後、GIS情報などを活用しながら、5年後、10年後の具体的な計画案まで共有できると良いのではないかな。
- ・ 高性能林業機械については、稼働率を上げてコストを下げることを目指すべきであり、森林面積と蓄積が充分にあるこの団地で実証をしたい。
- ・ ビジョンの値については、目標年だけではなく、これを恒常的に達成できるように、具体的な取組を実施していくことが重要。
- ・ 目標に向けて素材生産量を順調に増やすことができるよう、将来の木材市況についても想定・注視すべき。
- ・ 同じ生産量であっても、これまで出しづらかったところからの生産については、それに見合った評価ができると良いのではないかな。
- ・ 目標値については、もし無理な数字を掲げてしまうと資源的に破綻することになるので、充分注意したものとすべき。
- ・ これまでの議論で出されていたことを集約すると、素材生産量や総生産額を目標値とすることが良いのではないかな。
- ・ ビジョンの総生産額については、「参考値」のような標語的なものではなく、期

待をできるような表現にすべき。

- ・ ビジョンの設定年については、現在審議されている森林・林業基本計画にあわせた方が良いのではないか。
- ・ この団地のポテンシャルは高いと思っているので、ビジョンの値を目標にしつつ、これを超えていくという気持ちで積極的に取組を進めていきたい。
- ・ マーケットに見合った林業の実現という観点で、出来るだけ伐採までの期間を短くするという取組も重要。エリートツリーや早生樹の開発・実証に積極的に取り組んでいきたい。
- ・ この全体構想に基づく取組は全国からも注目されるものであるなので、今後行われる運営会議やワーキンググループの内容や進捗については、しっかりと見える化をしてほしい。
- ・ 協定区域を含む五木村の多くの森林はSGECを取得している。持続的な森林経営をしつつ、生産量も増やしていくという観点からも、こうした取組も活かしていくと良いのではないか。
- ・ 五木村が取り組んでいる産直住宅のプロジェクトとの連携も考えられるのではないか。

など

(今後の運営体制(案)について)

- ・ 運営会議では、各取組による効果の検証とあわせてビジョンの達成状況の管理も行うべき。
- ・ 今後は、森林組合が担当している私有林や村有林などにも、参加・連携を呼びかけていくべき。
- ・ 全体構想に基づく取組を進めていく際に、何らかの予算措置も必要となるのではないか。また、関連予算を工夫して積極的に活用すべき。
- ・ ワーキンググループの体制については、それぞれの専門家もメンバーに入れるなど、結果が出やすくなるよう工夫すべき。とりまとめ役として、フォレスターの活躍にも期待。
- ・ 森林情報活用ワーキンググループでは、各取組の調整として、協定者間での施業計画等の情報共有・調整も行うべき。

など